「平成30年度秋田県事業系廃棄物減量化推進セミナー」事例紹介

株式会社ホクシンエレクトロニクス
鈴木　秀紀

会社概要

商　号：株式会社ホクシンエレクトロニクス

代表者：代表取締役社長　佐藤　宗樹

設　立：平成3年11月7日

資本金：2,600万円

事業所：秋田県秋田市牛島　本社工場、第一工場、第二工場

従業員数：300名

認証・登録

・ISO9001：2015年度版

・エコアクション21：2017年度版

・医療機器製造業登録

PERRY JOHNSON REGISTRARS, INC.

登録証

ペリージョンソン レジストラーは、下記の組織の品質マネジメントシステムを審査しました。

株式会社 ホクシンエレクトロニクス
本社工場 秋田県秋田市牛島東1丁目11-8
（本登録はキャンパス・スキームであり、事業所の各種的な詳細については付属書を参照のこと。）

ここに本組織が

ISO 9001:2015

に適合していることを証します。

また、本登録の範囲は、以下のとおりとします。

通信用アンテナ、ヒンジ等の電子部品、
液晶バックライト用ランプユニット、フローコントローラー、
樹脂成形部品及びワイヤーハーネスの製造

本登録は、上記規格の審査登録を管理するシステム規定に従い続きます。組織は、その規定を遵守、適合し、審査当期間内の体制を維持することをここに誓約する。

代表取締役社長 テリー・ボボイジ

Perry Johnson Registrars, Inc. (PJR)
785 West Big Beaver Road, Suite 1500
Troy, Michigan 48084
USA (248) 358-3388

本登録証の取方は、定期的なサーベイランスを条件とする。

発効日 2015年11月19日
有効期限 2021年11月18日

登録証番号 C2018-02676
ページ：1 / 2

IPSuS

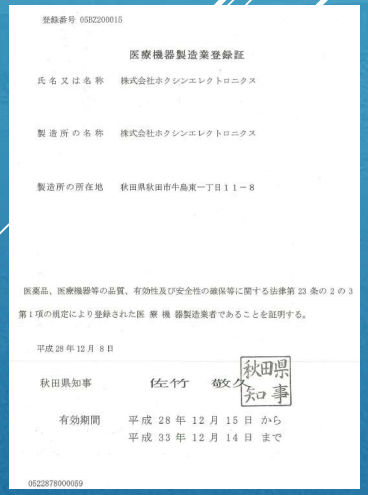
環境省
エコアクション21

認証・登録証

認証・登録番号	0002757
認証・登録事業者	株式会社ホクシンエレクトロニクス 秋田県秋田市牛島東一丁目11-8
事業活動	通信アンテナ、ヒンジ等の電子部品、 液晶バックライト用ランプユニット、フローコントローラー、 プラスチック成形品、半導体製造装置ユニット、電子応用機器、 FPC の製造と新製品の設計開発
対象事業所	第一工場、第二工場、開発部（秋田県産業技術センター内）、本社工場
認証・登録日	2008年8月7日
更新・登録日	2018年8月7日
有効期限	2020年8月6日

上記事業者は「エコアクション21ガイドライン2017年版」(環境省)の要求事項に適合していることを証します。

一般財団法人 持続性推進機構
理事長　安井 至



登録番号 0582200015

医療機器製造業登録証

氏名又は名称　株式会社ホクシンエレクトロニクス

製造所の名称　株式会社ホクシンエレクトロニクス

製造所の所在地　秋田県秋田市牛島東一丁目１１－８

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第 23 条の２の３第１項の規定により登録された医 療 機 器製造業者であることを証明する。

平成 28 年 12 月 8 日

秋田県知事　佐竹　敬久　秋田県知事

有効期間　平成 28 年 12 月 15 日 から
平成 33 年 12 月 14 日 まで

0522878000059

事業内容

- 各種アンテナ（携帯電話等）
- プラスチック成形
- 液晶バックライト用ランプ組立
- 半導体製造装置ユニットの製造
- FPC（フレキシブルプリント回路基板）の加工・検査
- 医療機器（超音波式フローセンサー）

主な廃棄物について

・事業系一般廃棄物（6%）→　事務系の紙類やプラスチック類の混合物

・産業廃棄物（33%）→　廃プラスチック類・金属くず・
廃油・水銀使用製品（蛍光ランプ）

・有価物（61%）→　紙類・金属類・プラスチック

2017年度実績　：　排出量=32.4ton
リサイクル率=91.9%

減量化に向けた基本的な考え方

・製品歩留まりの向上

・リサイクル率の維持・向上

・最終処分量（埋立）のゼロ化

・適正な処理

具体的な取り組みの内容（主なもの）

①廃プラスチックのリサイクル

プラスチック成形部品をマテリアルリサイクルとサーマルリサイクルへ。

歩留まり向上による減量化。分別の徹底によるマテリアルリサイクル化。

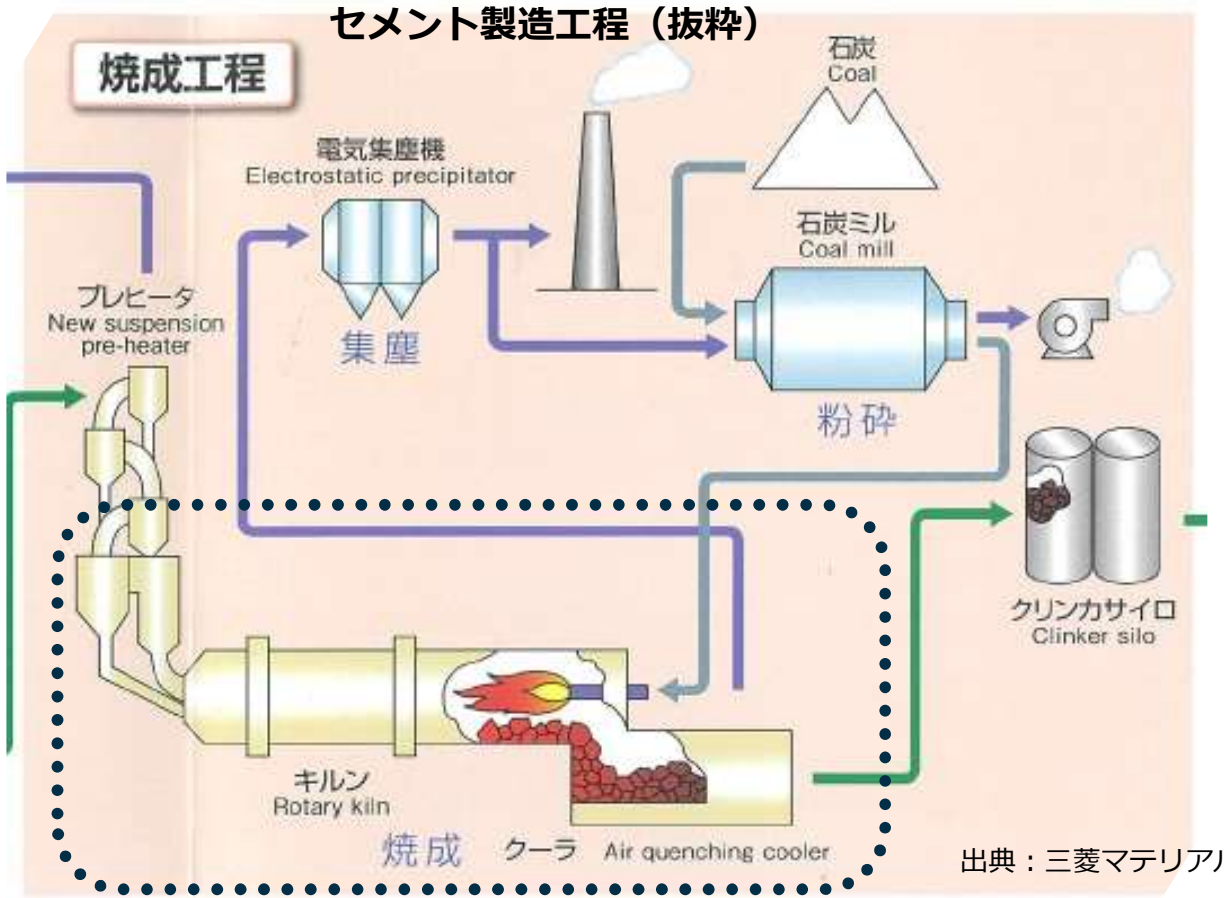
業者へ依頼して、破砕→溶融固化を行い、RPF（固形燃料）に処理して、

セメント工場の補助燃料としてサーマルリサイクル化。

またプラスチック成形部品以外のプラ製廃棄物もサーマルリサイクル化。

セメント製造工程（抜粋）

原料工程



仕上工程

出典：三菱マテリアル株式会社　岩手工場

具体的な取り組みの内容（引き続き）

②廃油のリサイクル

製品の洗浄で使用していた廃油を業者へ依頼して、油水分離→濾過→遠心分離等の処理を行い、セメント工場の補助燃料としてサーマルリサイクル化。現在では溶剤による製品の洗浄工程は行っていない（今後排出予定無し）。

③水銀使用製品（蛍光ランプ）のリサイクル他

廃蛍光ランプを業者へ依頼して、水銀の適正処理を行うと共に、事業所内照明を、LED照明へ切り替えを計画的に実施して、水銀使用製品（蛍光ランプ）の排出量の抑制を図っていて、省エネ効果にも寄与している。

取り組みの手法（EMS）

当社においては環境マネジメントシステムとして、ISO14001ではなく環境省が策定した「エコアクション21」の認証をいただいております。ISO14001規格を参考としつつ、中小事業者にとっても取り組みやすい環境経営システムです。

省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル、節水、自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善に取り組んでいます。

環境コミュニケーションの取り組みのひとつとして、環境活動レポートの作成と公表(1回/年)が必須となっていて、当社としてもエコアクション21中央事務局ホームページや自社のホームページで公表しております。

当社ホームページ

ホクシンエレクトロニクスは、電子機器（アンテナ・半導体・液晶露光装置）製造・組み立て、医療装置の研究、開発を通じて健康社会が考える未来を描き続けます。
株式会社 ホクシンエレクトロニクス
018-837-0811(代)
本社:秋田市牛島東一丁目11番8号
高品質・高性能・低コストで
社会に貢献する。
ホーム HOME
生産品目のご紹介 Production Item
開　発 Development
会社情報 Company
環境・社会貢献 Environment
お問い合わせ Mail
生産品目のご紹介
開　発
会社情報
環境・社会貢献
新着情報
お問い合わせ
■本社工場
秋田市牛島東一丁目11番8号
TEL：018-837-0811㈹
FAX：018-837-0812
■第一工場
秋田市牛島西一丁目4番10号
TEL：018-884-7580
FAX：018-884-7581
未来を描く
私たちホクシンエレクトロニクスは、
電子機器（アンテナ・半導体装置・液晶露光装置）製造、
新規製品の開発を通じて、
健康社会が考える未来を描き続けます。
PRODUCTION ITEM
製造品目・加工品目
携帯電話用アンテナ
ワンセグアンテナ
その他アンテナ
開発設計販売はスタッフ株様
携帯電話機用機構部品
携帯電話店頭用ディスプレイ
プラスチック成形
半導体製造装置
液晶露光装置
各種ハーネス

エコアクション21
エコアクション２１とは？
持続可能な社会を構築するためには、あらゆる主体が積極的に環境への取り組みを行うことが必要です。事業者は製品・サービスを含む全ての事業活動の中に、省エネルギー、省資源、廃棄物削減等の取り組みを行うことが求められています。
エコアクション２１は、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的、効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、取り組みを行い、それらを継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。
当社はエコアクション２１ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者として、エコアクション２１認証・登録を受けています。
>>エコアクションの詳しい情報はこちらから
私たちは、地域と地球の環境に配慮した事業者です
®環境省
エコアクション21
認証番号０００２７５７
※下記より毎年の当社のエコアクション活動内容がご覧いただけます。ダウンロードしてご覧ください。
2016年の活動内容はこちら
2017年の活動内容はこちら

文書番号　HER　E155
エコアクション２１
「環境経営レポート」
《２０１７年版》
（２０１７年１月１日～１２月３１日）
発行日：２０１８年３月２８日発行
株式会社 ホクシンエレクトロニクス
〒010－0062　秋田県秋田市牛島東一丁目１１－８
TEL018－837－0811　FAX018－837－0812

今までに取り組んだこと

①温室効果ガスCO2排出量削減

・電力購入先変更

・社有車のアイドリングストップ活動やエコドライブ活動

・省エネパトロール（1回/週）の実施　→　定時退社日の設定

②廃棄物削減とリサイクルの推進

・一廃、産廃の分別徹底

・リサイクルの推進

③省資源の推進

・水使用量の削減、OA用紙購入量の削減

今までに取り組んだこと（引き続き）

④リスク管理の強化

・化学物質の管理

・緊急事態への対応

⑤環境配慮型製品の購入

・グリーン購入の推進

⑥社会貢献活動の推進

・地域清掃活動の実施や参加、廃食用油収集、こでん回収、献血

⑦環境コミュニケーションの推進

・協力会社支援、環境教育の継続実施（社内）

取り組みの効果

①温室効果ガスCO2排出量削減

・電力購入先変更：東北電力株式会社から再生可能エネルギーメインの電力会社に契約変更

2008年←→2018年比較　　CO2：△86%の削減、金額：△11%の削減

②廃棄物削減とリサイクルの推進

・分別の徹底とリサイクルの推進

2008年←→2017年比較　　70.3%/2008年←→91.9%/2017年

③省資源の推進

・OA用紙購入量の削減

工程内で使用しているB4用紙をA4に裁断して活用

385千枚/年分のOA用紙の購入無し。270千円/年のコストダウン

取り組みの効果

④リスク管理の強化

・化学物質の管理→環境負荷物質管理のシステム化（RoHS指令を含めchemSHERPA-AI等のツールを活用した化学物質管理方法の確立）

⑤環境配慮型製品の購入

・グリーン購入の推進

2008年←→2017年比較　　70.3%/2008年←→98.6%/2017年

⑥社会貢献活動の推進

・夕日の松原クリーンアップへの参加や献血への協力の継続

⑦環境コミュニケーションの推進

・環境経営システム導入による組織の活性化

今後も役立つ取り組みを、皆様と共に実践して参ります。

ご清聴ありがとうございました。